

科目	成人看護概論				
時間数	1 単位30時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	③毛利智恵美				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	『おとな』になることやその生活について学ぶことは、学生にとって、これから自身が向かっていく将来の姿であり、とらえやすいテーマではないだろうか。ここでは、家庭や社会において中核的役割を果たす成人の健康問題に対する看護アプローチの基本や、多様な健康状態にある対象への看護を学ぶことをとおして、「健康」について考える。又、地域包括ケアシステムの中で、対象者や家族が望む生活を実現するための看護の方向性を学んで欲しい。				
目標	1. 生涯発達の視点から『おとな』になることと、現代社会での生活を理解する。 2. 成人の健康行動を促す看護アプローチの基本を学ぶ。 3. 看護にとっての「健康」の考え方を学ぶ。 4. 健康状態に応じた看護を理解する。 5. 地域包括ケアシステムと療養の場の移行に伴う看護を理解する。				
授業計画					
回	内容				
1	1 章 生涯発達の視点から 現代社会の様々な出来事に目を向け、『おとな』の生活を観る視点を持つ				
2	生涯発達の特徴と発達課題 成人の生活と健康 (青年期・壮年・中年期・向老期)について考える				
3	2 章 成人を取り巻く環境と生活の状況 人口からわかること <少子高齢化>				
4	成人の健康の状況 生と死の動向 平均寿命と健康寿命 成人病から生活習慣病へ				
5	学習のまとめ *「人生 100 年時代を生きる」				
6	成人への看護アプローチの基本 3 章 成人の健康行動を促す看護アプローチの基本 大人の健康行動と学習者である患者への支援 行動変容と自己効力感 エンパワメント 症状マネジメント				
7	健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 看護マネジメントとチームアプローチ				
8	看護実践における倫理的判断と意思決定支援 意思決定支援における看護師の役割				
9	成人の健康レベルや状態に対応した看護 4 章 ヘルスプロモーションと看護				
10	5 章 健康をおびやかす要因と看護 「健康の定義」と健康バランス ストレスコーピング				
11	6 章 健康生活の急激な波状とその回復を支援する看護				
12	7 章 慢性病と共に生きる人を支える看護				
13	8 章 障害がある人の生活とリハビリテーション				
14	9 章 人生の最期のときを支える看護				
15	10 章 生活と健康を守り育む保健医療福祉システムと連携 療養の場を移行する人々への看護				
評価方法	時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える 平素の学習への参加状況・課題の提出状況 及び 単元範囲の筆記試験を総合して評価する 課題(レポート)は、指示された様式にそって記述する。内容不足の場合、再提出を求める。				

	筆記試験は 60 点以上を及第点とする。
教科書	成人看護学(1)成人看護学総論:医学書院